

## 2026年4月日銀金融政策決定会合、政策金利の据え置きを決定

## &lt;結果概要&gt;

・日銀は、4月金融政策決定会合において政策金利を0.75%程度に据え置くことを決定した(賛成6、反対3)。高田審議委員、田村審議委員および中川審議委員の3名は、それぞれ国内物価の上振れリスクについて言及し、政策金利を現行水準に据え置く案に対して反対票を投じた。前回会合では賛成8名・反対1名であったのに対し、今回は反対票を投じる委員が増加するなど、全体として利上げに前向きな姿勢が示される結果となった。

・3カ月毎に公表される「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」の主な内容は以下の通り。

【経済】2026年度は原油価格上昇に伴う交易条件の悪化を背景に成長ペースは減速するが、春闘における堅調な賃上げの実現や緩やかな金融環境、政府による各種施策等が下支えとなり、緩やかな成長が継続するとの見方を示した。

【物価】中東情勢悪化を背景とした原油価格上昇により2026年度は2%後半まで上昇するが、その後は原油高の影響の減衰に伴い伸び率は縮小する。また、その間も賃金と物価の好循環が維持されるとの見方が示された。「物価安定の目標」と概ね整合的な水準に達する時期は前回は2025年度から27年度の見通し期間後半とされていたが、今回は2026年度後半から27年度と、時期が明確に示された。

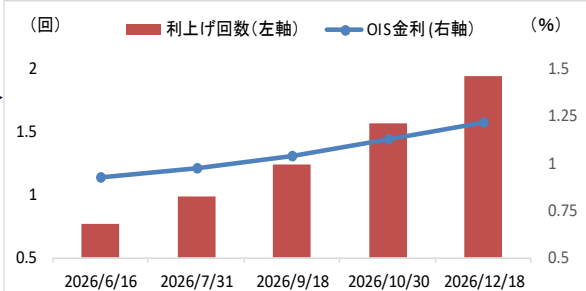
・このようななか、2026年度及び27年度の実質GDP見通しは下方修正され、消費者物価指数は見通し期間を通じて上方修正された。

・金融政策運営については、今後の中東情勢の動向により経済見通しについては下振れリスク、物価見通しについては上振れリスクがあるため経済・物価の中心の見通しを実現する確度やリスクを点検しつつ行っていく方針が示された。

## &lt;決定内容&gt;

|         | 前回結果 | 市場予想 | 今回結果 |
|---------|------|------|------|
| 政策金利(%) | 0.75 | 0.75 | 0.75 |

## &lt;OISからみる今後の利上げ回数予想&gt;



※OIS(オーバーナイト・インデックス・スワップ)とは・・・一定期間の「オーバーナイト無担保コールレート」と「固定金利」を交換する1種の金利スワップ。日本銀行の金融政策スタンスに対する市場の見方を観察するのに適した指標として注目度が高い。

## &lt;4月展望レポート(経済・物価見通し)(前年比、中央値)&gt;

|                          |        | 2026年度 |        |        |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                          |        | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 |
| 実質GDP(%)                 | 4月(今回) | 0.5    | 0.7    | 0.8    |
|                          | 1月(前回) | 1.0    | 0.8    | -      |
| 消費者物価指数(除く生鮮食品)(%)       | 4月(今回) | 2.8    | 2.3    | 2.0    |
|                          | 1月(前回) | 1.9    | 2.0    | -      |
| 消費者物価指数(除く生鮮食品・エネルギー)(%) | 4月(今回) | 2.6    | 2.6    | 2.2    |
|                          | 1月(前回) | 2.2    | 2.1    | -      |

## &lt;日銀総裁会見要旨&gt;

・植田総裁は、政策金利を据え置いた理由について、中東情勢の悪化に伴う原油価格上昇を背景に中心の見通しの確度が低下している点を挙げ、景気については大きな調整局面の有無、物価については基調的物価の上振れリスクを注視していく姿勢を示した。

・また、物価が大きく上振れるリスクが顕在化して経済に悪影響を及ぼす点について注意する必要があるとし、政策対応が後手に回るピハインド・ザ・カーブに陥らないよう「次回以降の決定会合において適切に政策を判断していきたい」とした。

・政策金利を据え置く案に対して3票の反対票が投じられたことについては深刻に受け止めているとし、反対した委員を含め物価の上振れリスクへの警戒感が現行の緩やかなスタンスを維持することに対する慎重な見方に繋がっているとしたうえで、適切な金融政策の判断は極めて難しいとの認識を示した。

・今後の政策運営については、当面成長率が低下する場合でも、大きな景気の下振れということにならない限り物価の上振れリスクなどが顕在化する場合には「利上げの可能性はある」と中東情勢の行方を見極めつつ利上げ路線は継続する考えを示した。

## &lt;足許の相場動向&gt;

## ●国内債券市場

国内債券市場は、日銀金融政策決定会合で政策金利据え置きに対し3票の反対票が投じられたほか、展望レポートで物価見通しが上方修正されたことで利上げ観測が高まるなか、2年債金利は前日比+0.015%の1.370%まで上昇した。一方で、政策対応が後手に回るリスクが和らいだとの見方から超長期債には買いが入り、20年債金利は、同▲0.025%の3.305%まで低下した。

## ●株式市場

国内株式相場は、前日に終値ベースで初めて60,000円台に乗せ史上最高値を更新した反動から、半導体関連株を中心に利益確定の売りがみられたほか、日銀金融政策決定会合の結果を受けた利上げ観測の高まりが相場の重しとなり、節目の60,000円を割り込む展開となった。

## ●為替市場

ドル/円は、朝方は日銀の政策発表を控え159円台半ばでもみ合う展開となっていたものの、政策発表後は日銀利上げ観測の高まりを背景にドル売り円買いが圧力が強まり、一時159円を割り込む動きとなった。

## &lt;4月28日市況動向&gt;

|             | 4月27日 終値  | 4月28日15時30時点 | 前日比      |
|-------------|-----------|--------------|----------|
| 日経平均株価      | 60,537.36 | 59,917.46    | ▲ 619.90 |
| 国内2年債金利(%)  | 1.355     | 1.370        | 0.015    |
| 国内10年債金利(%) | 2.465     | 2.465        | 0.000    |
| 国内20年債金利(%) | 3.330     | 3.305        | ▲ 0.025  |
| ドル/円        | 159.42    | 159.21       | ▲ 0.21   |

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。